

小規模事業者 景気動向調査報告書

平成 29 年度第 3 四半期

(平成 29 年 10~12 月期)

延岡商工会議所／中小企業相談所

延岡市中央通 3 丁目 5 - 1

TEL 0982 (33) 6666

FAX 0982 (33) 6682

I. 実施概要

1. 調査対象事業所数	237事業所
2. 回答事業所数	89事業所
3. 回答率	37.5%
4. 業種別内訳	
製造業	8事業所
建設業	12事業所
卸売業	5事業所
小売業	16事業所
サービス業	48事業所
合計	89事業所

5. 実施時期

平成30年 3月

6. 調査対象期間

平成29年 10月～12月（第3四半期）

7. 調査内容

調査対象期間である第1四半期について前年同期比、前期比、来期見通しの売上（受注）状況、採算（経常利益）、資金繰り、材料仕入価格、雇用（労働力）状況、設備投資計画、業況の各項目についての状況。

（DI値の集計）

※ DI値（景況判断指数）について

DI値は、売上、採算、資金繰り、仕入価格、雇用状況、設備投資、業況の各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気、弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

売上：（増加）－（減少）

採算：（好転）－（悪化）

資金繰り：（好転）－（悪化）

仕入価格：（低下）－（上昇）

従業員：（不足）－（過剰）

設備投資：（拡大）－（縮小）

業況：（好転）－（悪化）

8. 調査方法

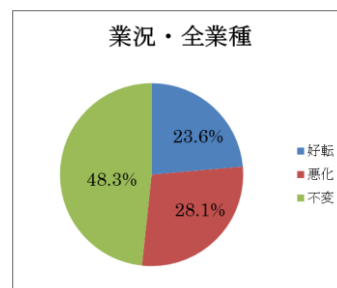
調査対象事業所に対して、調査票を郵送しファクシミリ及び電子メール等で回収、当所にて集計、分析を行う。

Ⅱ. 概況

1. 全業種の業況

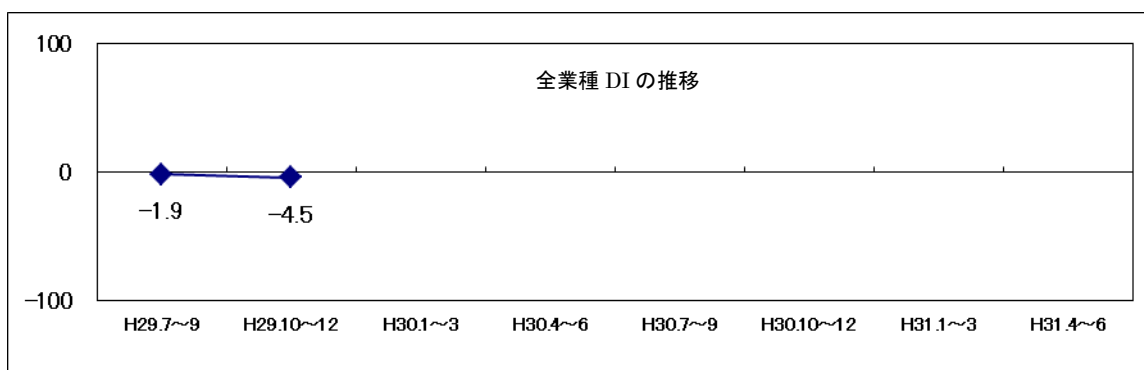
全業種の業況判断は、前年同期比のD I値は▲4.5ポイント。業況が好転したと回答した事業所は23.6%、悪化したと回答した事業所が28.1%、変わらないと回答した事業所は48.3%だった。

10～12月は、製造業・建設業・小売業・サービス業では客層の高齢化、仕入価格の上昇等により業況は悪化。卸売業では営業活動の強化による売り上げの増加などにより業況が改善。



来期見通し(1～3月)については、小売業では仕入価格や人件費の値上がりなどにより業況は悪化の見通し。一方、製造・建設・卸売・サービス業では新たな販路の開拓や取引先の受注状況の好転などにより業況は改善の見通し。

	H29.7～9	H29.10～12	H30.1～3 見通し
全業種	▲1.9	▲4.5	6.7
製造業	0.0	▲25.0	12.5
建設業	21.4	16.7	33.3
卸売業	▲25.0	20.0	20.0
小売業	▲16.0	▲25.0	12.5
サービス業	0.0	▲2.1	▲4.2



2. 業種別の概要

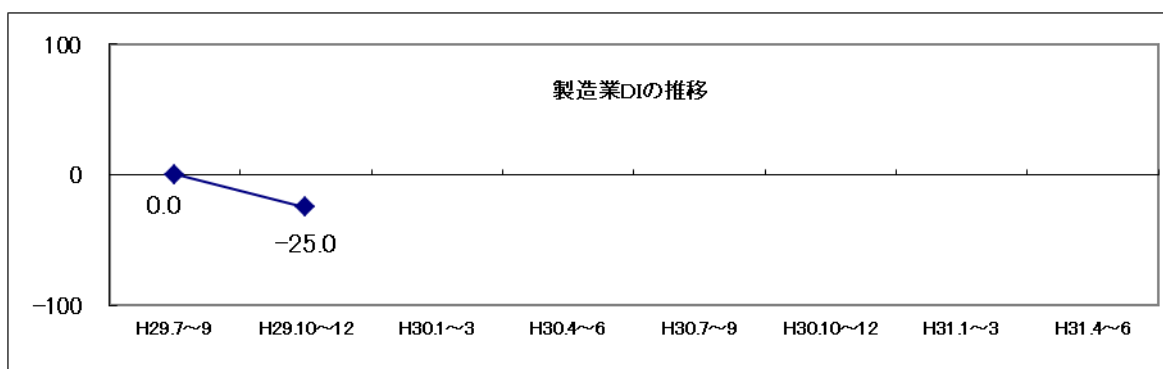
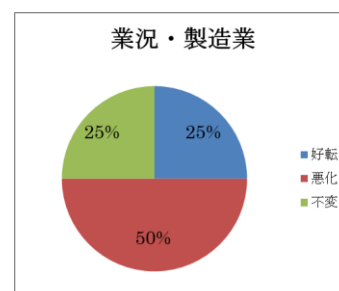
① 製造業の業況判断は、

前年同期比のDI値が▲25.0ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は25.0%、悪化したと回答した事業所が50.0%、変わらないと回答した事業所が25.0%だった。

製造業からは「ちりめん・イワシの漁獲量が少なく高値で推移しているため利益につながらない」（水産物加工製造業）のほか、「昨年より続いているリピート製品が予定通り受注できている」（機械部品製造業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期見通しDI値は12.5ポイントで、好転する見通しとなっている。



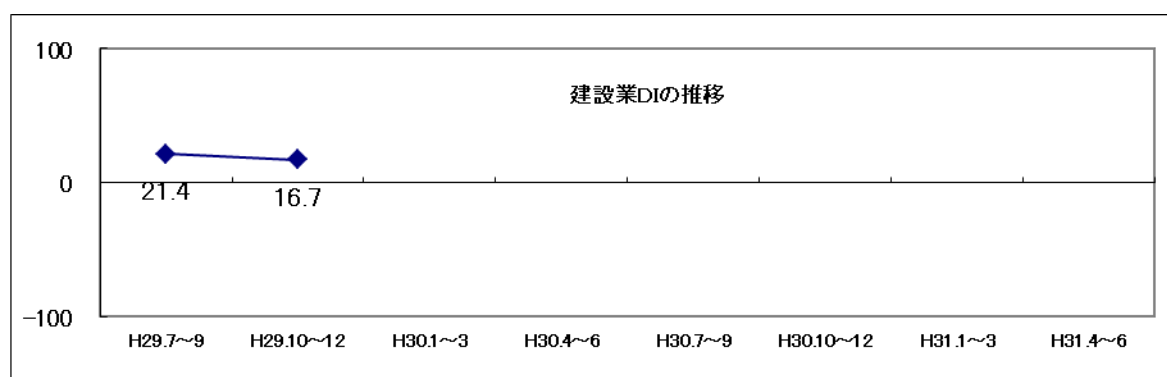
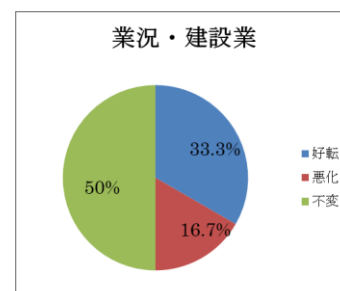
② 建設業の業況判断は、

前年同期比のDI値が16.7ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は33.3%、悪化したと回答した事業所は16.7%、変わらないと回答した事業所は50.0%だった。

建設業からは、「昨年よりはお客様が増えているので売上、採算等は好転していると思う」（一般土木建築工事業）、「前年は大手ゼネコンからの下請け工事を受注したが、今年は金額が折り合わなかった」（水道設備工事業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期見通しのDI値は、33.3ポイントで、好転する見通しとなっている。

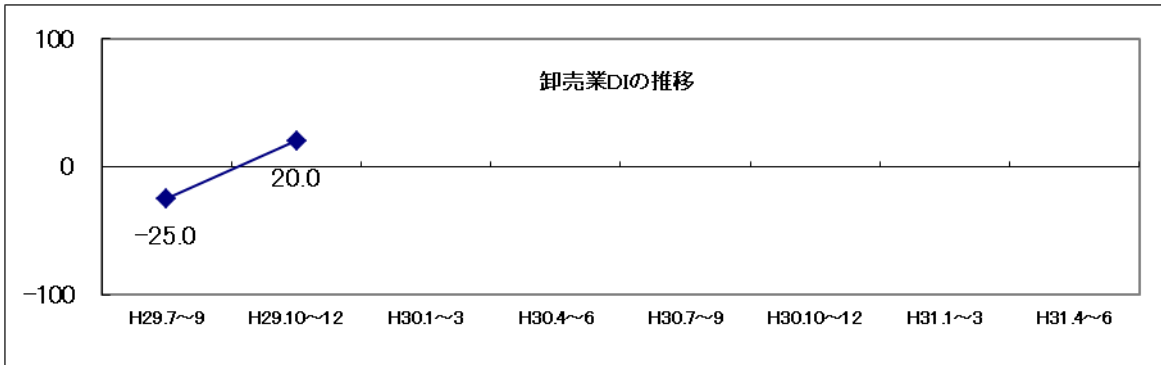
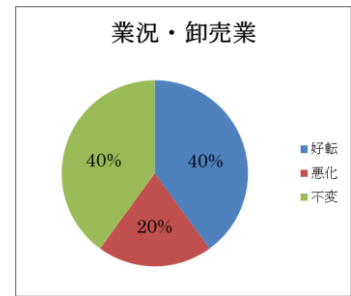


③ 卸売業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が20.0ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は40.0%、悪化したと回答した事業所が20.0%、変わらないと回答した事業所は40.0%だった。

卸売業からは、「大型の葬儀からの注文があり売上はよかった」（花卸売業）等が業況を示す意見として挙げられている。
来期の見通しD I 値は、20.0ポイントで、横ばいの見通しとなっている。



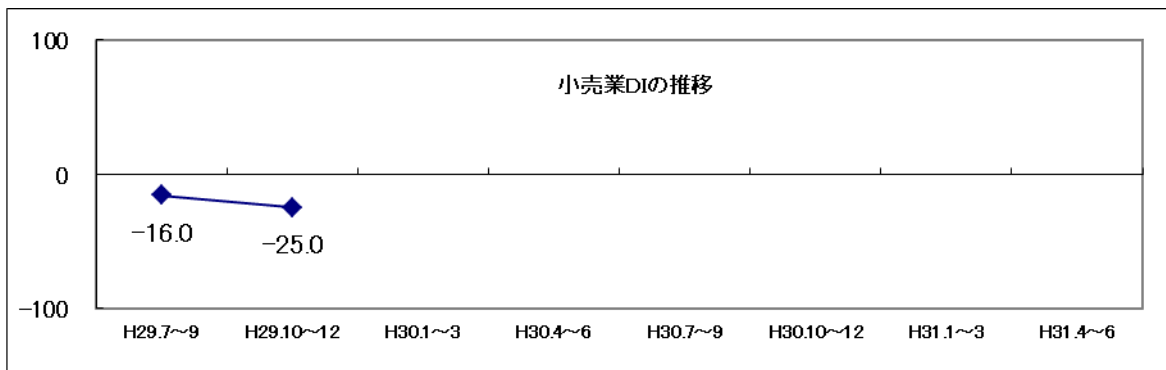
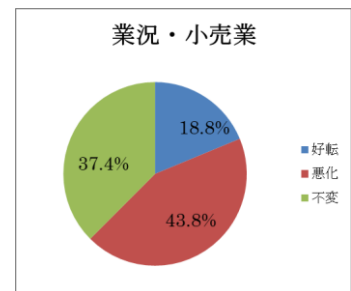
④ 小売業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が▲25.0ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は18.8%、悪化したと回答した事業所は43.8%、変わらないと回答した事業所は37.4%だった。

小売業からは、「自店の認知度が増してイベント等での注文などが増えた」（飲食料品小売業）や、「生鮮、特に青果物の価格が異常に高かったため利益がとれなかった」（食料品・雑貨小売業）等が業況を示す意見として挙げられている。

来期の見通しD I 値は、12.5ポイントで、好転する見通しとなっている。



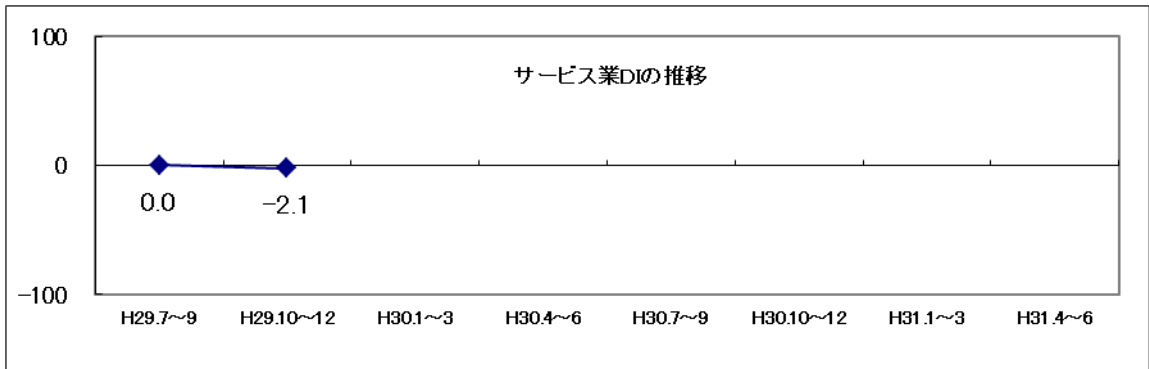
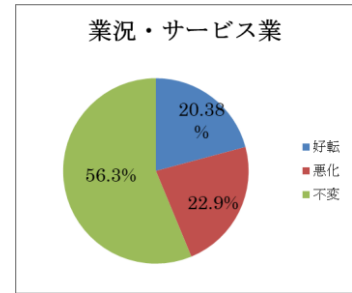
⑤ サービス業の業況判断は、

前年同期比のD I 値が▲2.1ポイント。

業況が好転したと回答した事業所は20.8%、悪化したと回答した事業所は22.9%、変わらないと回答した事業所は56.3%だった。

サービス業からは、「業務内容の差別化を図る一方で得意分野に集中したことで事業の受注業績も伸びた」（上下水道コンサルタント）、「予約は入るが対応できる人手が確保できないため予約をお断りしている状況」（飲食業）等が業況を示す意見として挙げられている。

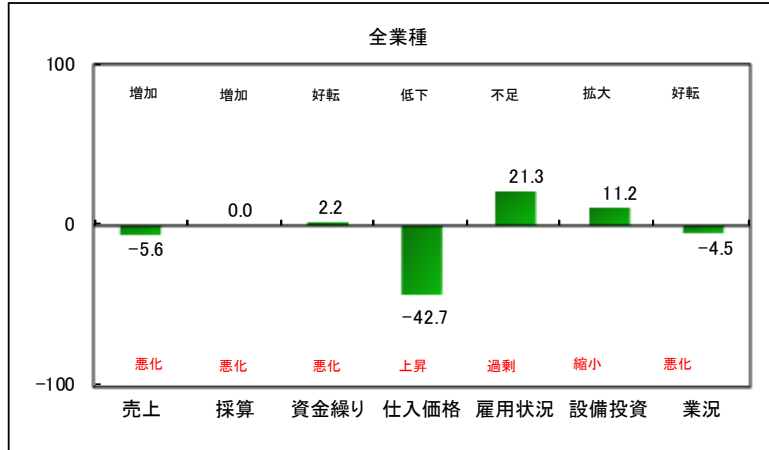
来期見通しD I 値は、▲4.2ポイントで、悪化する見通しとなっている。



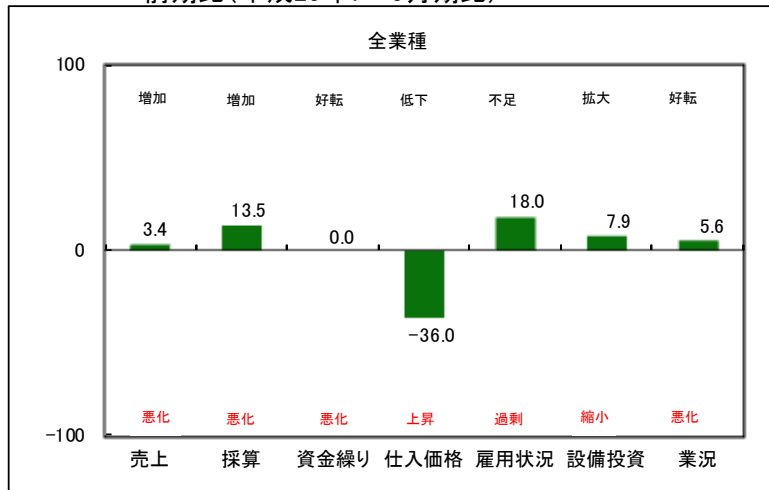
市内景気動向

全業種

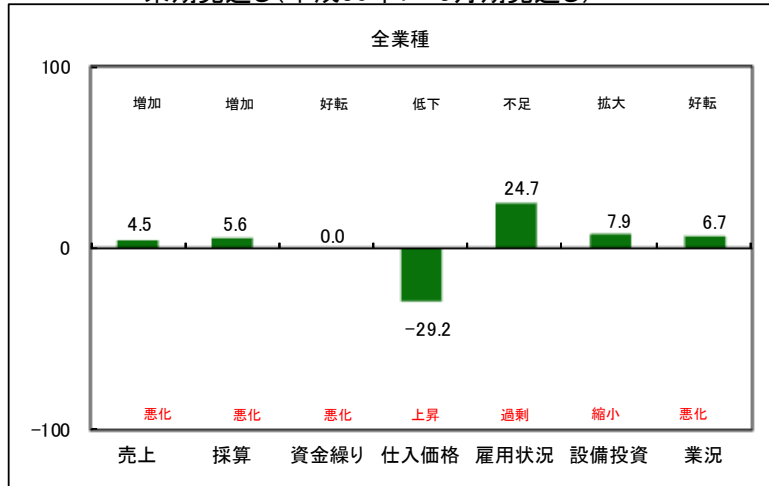
前年同期期比(平成28年10~12月期比)



前期比(平成29年7~9月期比)



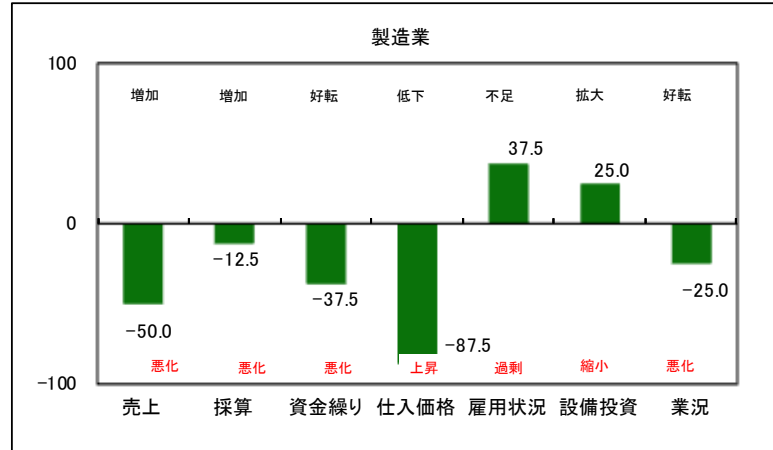
来期見通し(平成30年1~3月期見通し)



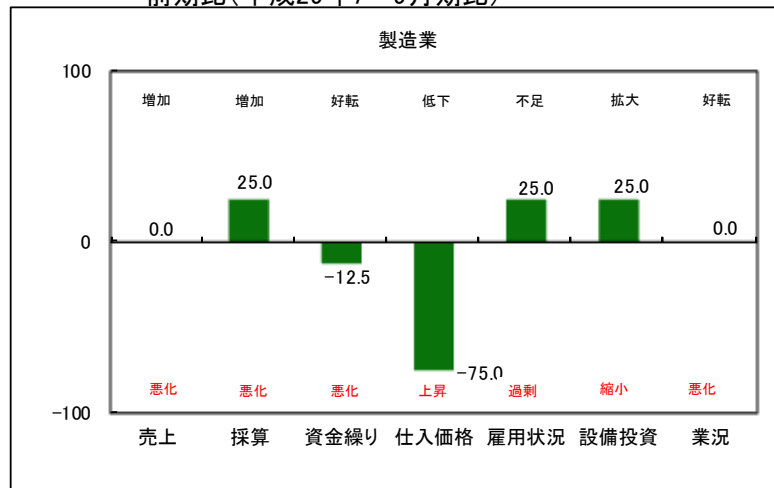
業種別景気動向

製造業

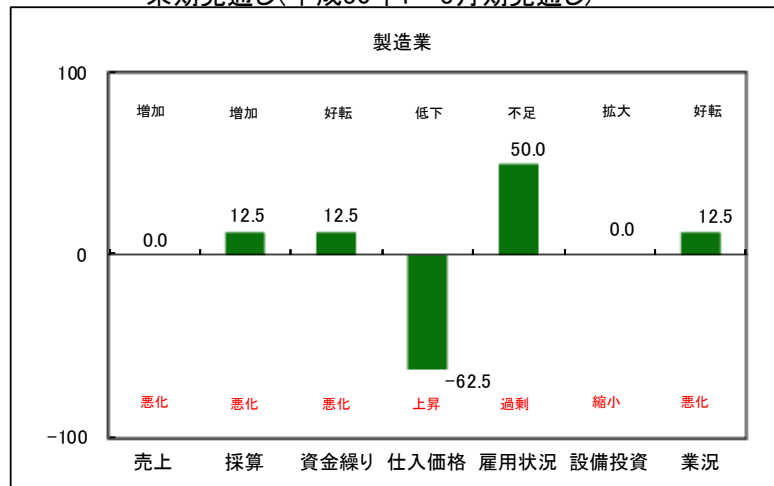
前年同期期比(平成28年10~12月期比)



前期比(平成29年7~9月期比)



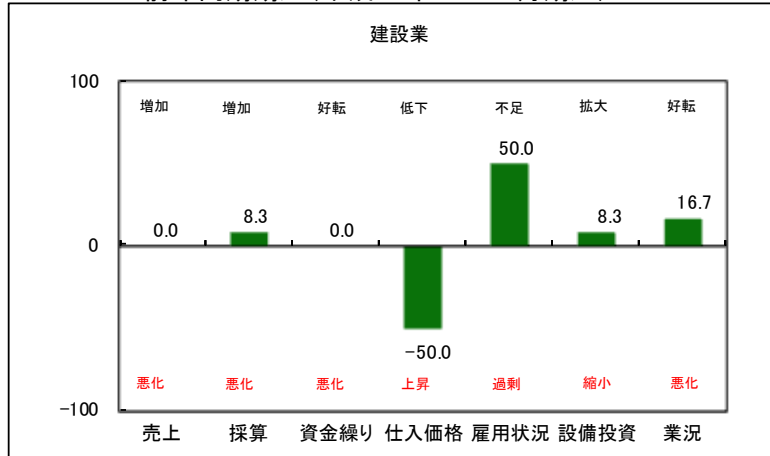
来期見通し(平成30年1~3月期見通し)



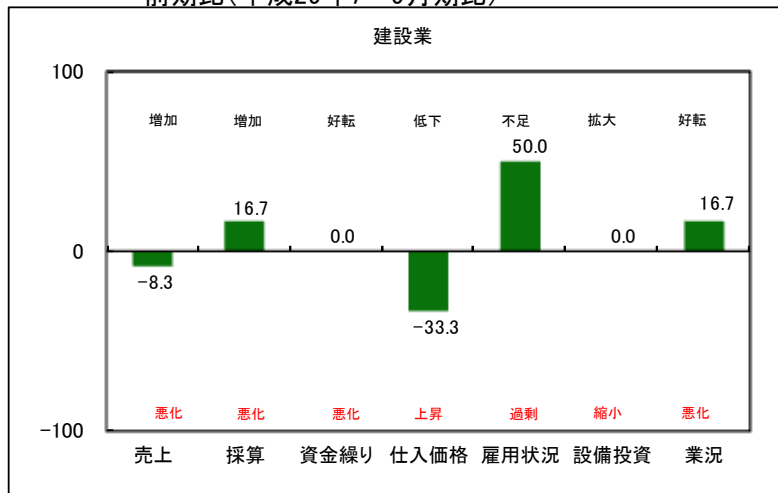
業種別景気動向

建設業

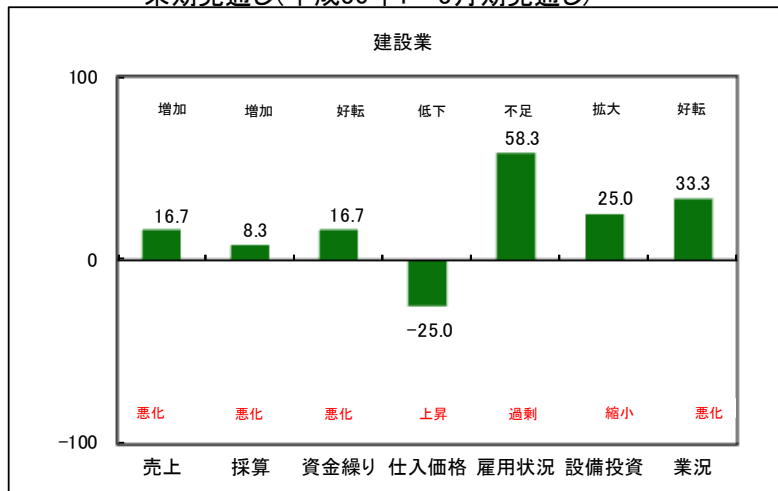
前年同期期比(平成28年10~12月期比)



前期比(平成29年7~9月期比)



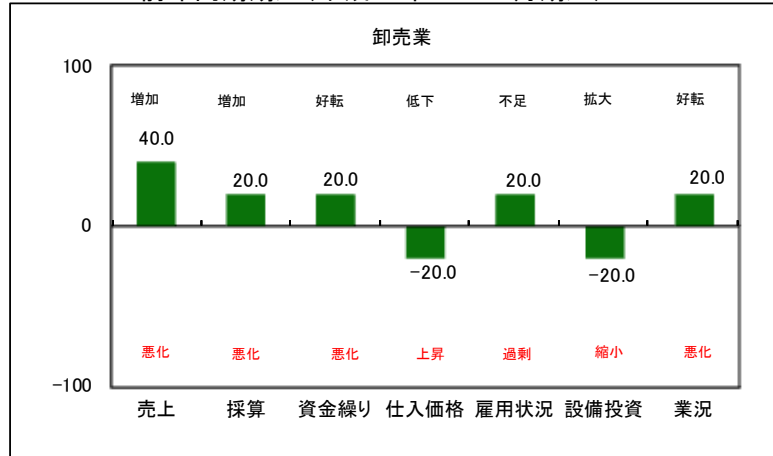
来期見通し(平成30年1~3月期見通し)



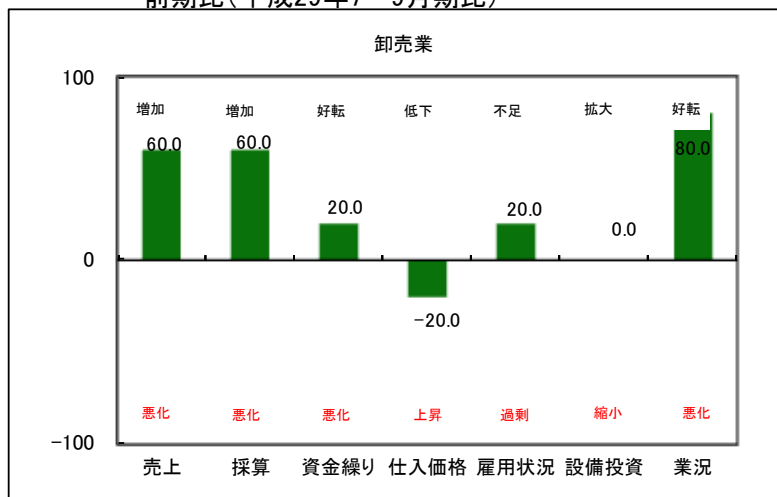
業種別景気動向

卸売業

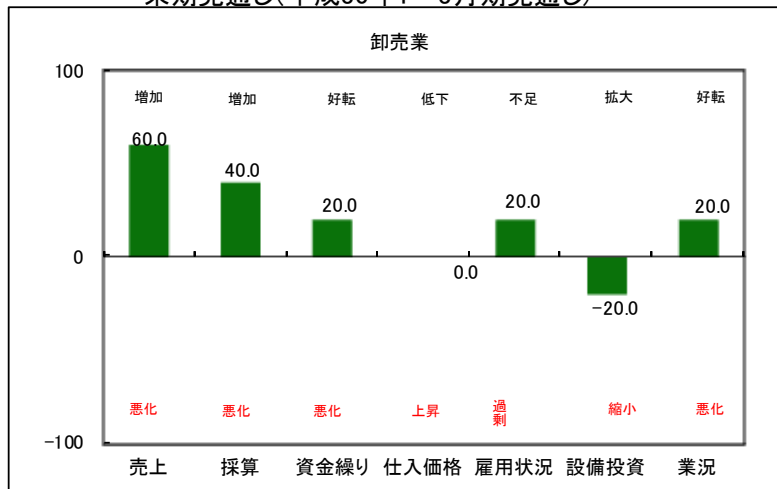
前年同期期比(平成28年10~12月期比)



前期比(平成29年7~9月期比)



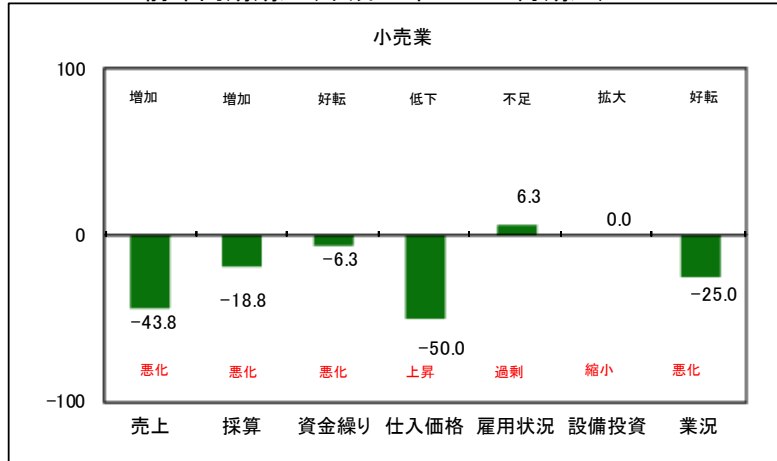
来期見通し(平成30年1~3月期見通し)



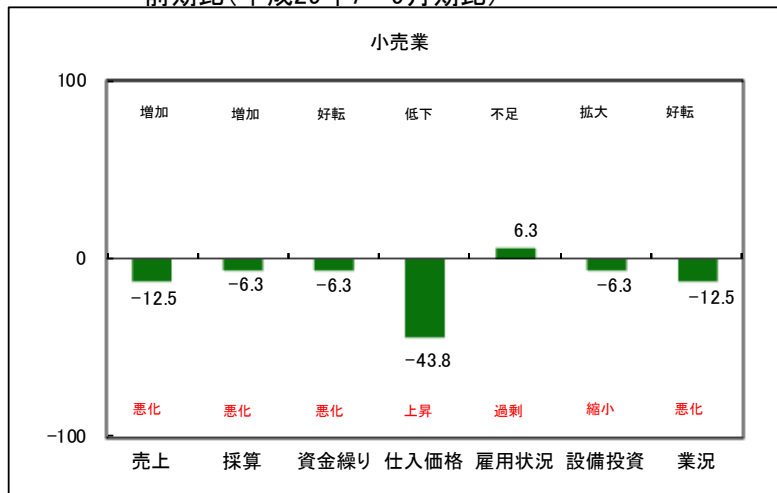
業種別景気動向

小売業

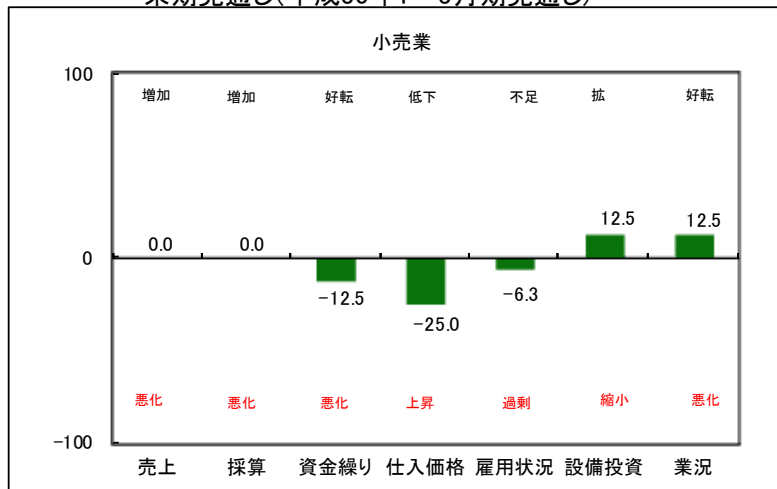
前年同期期比(平成28年10~12月期比)



前期比(平成29年7~9月期比)



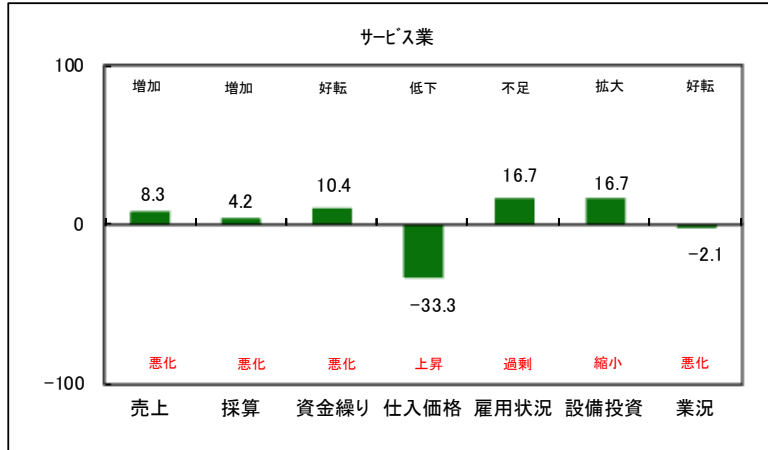
来期見通し(平成30年1~3月期見通し)



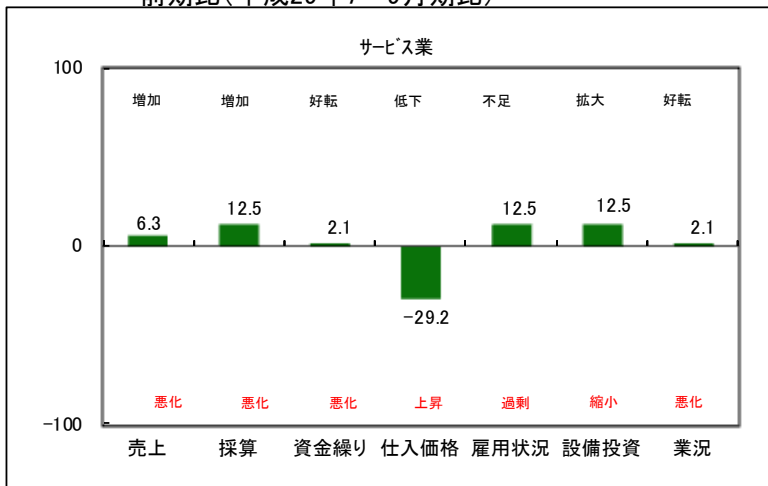
業種別景気動向

サービス業

前年同期期比(平成28年10~12月期比)



前期比(平成29年7~9月期比)



来期見通し(平成30年1~3月期見通し)

